

# 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

## 1 口蹄疫からの再生・復興・畜産新生の歩み

### (1) これまでの主な取組や情勢

本県で平成22年4月に口蹄疫が発生し、県内牛・豚飼養頭数の約1/4を占める297,808頭が犠牲となり、児湯地域を中心に無家畜地帯が生まれ、県内の畜産業や関連産業はもとより県内経済や県民生活へも大きな影響（推計 約2,350億円）を及ぼしました。

口蹄疫終息後、本県畜産業の復興を目指し、県では平成22年8月に「口蹄疫からの再生・復興方針」を策定し、防疫や環境に配慮した全国モデルとなる畜産の再構築（本県畜産の新生）に取り組みました。具体的な歩みを進めるために、平成25年3月には、「宮崎県畜産新生プラン」、平成28年8月に後継の「宮崎県畜産新生推進プラン」を策定し、畜産農家をはじめ関係団体等とも緊密に連携しながら、畜産業の発展を推進してまいりました。この結果、現在、飼養頭数の回復・維持がなされ、本県畜産業は着実に前進しています。

### 本県畜産の主な動き

「口蹄疫からの再生・復興方針」策定	宮崎県口蹄疫復興財団設立	初の防疫協定締結	宮崎ブランドポーク普及促進協議会発足	口蹄疫メモリアルセンター開設	第10回全国和牛能力共進会（長崎大会） 「日本一」連覇	「宮崎県畜産新生プラン」策定	西米良種雄牛センター開始	「宮崎ブランドポーク」県商品 ブランド認証	「人・牛プラン」策定（県内9地区）	「宮崎県畜産新生推進プラン」策定	宮崎県口蹄疫復興財団解散	第11回全国和牛能力共進会（宮城大会） 3大会連続内閣総理大臣賞獲得	台湾への牛肉輸出開始	宮崎牛GI認証取得	第90回米国アカデミー賞アフターパー ティー宮崎牛採用	第91回米国アカデミー賞アフターパー ティー宮崎牛2年連続採用	EUへの牛肉輸出	第92回米国アカデミー賞アフターパー ティー宮崎牛3年連続採用	口蹄疫終息10年	
8月	3月	4月	7月	8月	10月	3月	5月	7月	7~9月	8月	9月	9月	12月	2月	2月	8月	2月	8月		
H22年	H23年		H24年			H25年		H26年	H28年		H29年		H30年		H31(R1)年		R2年			
4月	8月	1月	3月				10月	12月	4月	12月	3月		9月	12月	2月	1月	2月~	12月~2月		
口蹄疫発生	口蹄疫終息宣言 (県内13件)	高病原性鳥インフルエンザ発生 (県内13件)	新燃岳噴火	東日本大震災発生			豚流行性下痢(PED)続発	高病原性鳥インフルエンザ発生 (県内2件)	熊本地震発生 (県内2件)	高病原性鳥インフルエンザ発生 (県内2件)	豚オーエスキー病清浄化	豚熱(CSF)国内発生	TPP11発効	日欧EPA発効	日米貿易協定発効	新型コロナウイルス感染症拡大	高病原性鳥インフルエンザ発生 (県内12件)			

○殺処分頭数 297,808頭  
 (牛: 69,454頭 豚: 227,949頭 その他: 405頭)  
 ○県内経済への影響: 約2,350億円

家畜伝染病の発生  
や国内外の情勢等

## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

### (2) 各プランの取組

#### ① 口蹄疫からの再生・復興方針

- 策定：平成22年8月19日 宮崎県口蹄疫復興対策本部
- 計画期間：平成22年8月から平成25年3月
- 概要：口蹄疫からの再生・復興に向けて、国、市町村、関係団体等が一体となって、以下の取組等を実施。

再生・復興の目標	主な取組
①早急な県内経済の回復、県民生活の回復	みやざきブランドと本県イメージの回復 中小企業支援、雇用対策 西都・児湯地域等の振興
②全国モデルとなる畜産の再構築（本県畜産の新生）	防疫体制の強化・見直し 畜産経営再開支援
③産業構造・産地構造の転換	人・農地等の農業資源の有効活用と所得向上 6次産業化等の促進

#### ② 宮崎県畜産新生プラン

- 策定：平成25年3月26日 宮崎県
- 計画期間：平成25年4月から平成28年3月
- 概要：「畜産新生」の取組を具現化するために、影響を受けた畜産農家が安心して経営を再開し、県全体の畜産農家が維持・発展することを目的として、以下の取組等を実施。

取組課題	主な取組	主な目標と実績
①生産性の向上	モデル農家指導の継続実施や研修会の実施	◎肉用繁殖雌牛の分娩間隔 目標：393日 実績：399日（モデル農家） （H26年度）
②生産コストの低減	飼料作物の多収技術の実証、栽培方法の啓発	◎粗飼料自給率 目標：100% 実績：96%（H27年度）
③販売力の強化	海外（米国、東南アジア、EU等）プロモーション	◎牛肉輸出 目標：100t/年 実績：208t/年（H27年度）
④畜産関連産業の集積	フードビジネスの推進や食品関連企業の立地	◎畜産物製造業出荷額 目標：2,100億円 実績：2,387億円（H27年度）

## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

### (2) 各プランの取組

#### ③ 人・牛プラン

- 策定：平成26年7月から9月 県内9地域
- 計画期間：(第1期)平成26年7-9月から令和3年3月
- 概要：県、市町村や畜産関係団体が連携し、地域の実状に応じた肉用牛生産基盤強化のための振興方針を策定・実行する本県独自の取組であり、国が現在、実施している畜産クラスター事業で各地域協議会が策定する「畜産クラスター計画」のモデルとなった。

プランの概要
①地域農業における肉用牛の振興方針
②地域担い手としての肉用牛経営体の育成方針
③地域経済の基盤としての肉用牛の位置づけ
④主体となる肉用牛経営体の明確化

目標 (R2年度)  
繁殖雌牛80,000頭



実績 (R2年度)  
繁殖雌牛82,900頭  
【※達成率 104%】

#### ④ 宮崎県畜産新生推進プラン

- 策定：平成28年8月23日 宮崎県
- 計画期間：平成28年8月から令和3年3月
- 概要：全国のモデルとなる安全・安心で付加価値や収益性の高い畜産の構築を目指し、防疫体制の強化を基本としつつ、3つの視点で畜産の新生を推進。  
なお、第七次宮崎県農業・農村振興長期計画(後期計画)における畜産部門のアクションプランとして位置づけるとともに、「畜産新生プラン」の後継プランとして、高齢化や担い手不足、生産基盤強化等の課題に対応する。

取組課題	取組内容	主な目標と実績
①「生産力」の向上	生産基盤の強化 生産コストの低減 生産性の向上	◎肉用繁殖雌牛頭数 目標：80,000頭 実績：82,900頭 (R2.2.1) ◎飼料作付面積 目標：35,000ha 実績：33,100ha (R2年度) ◎肉用繁殖雌牛の分娩間隔 目標：380日 実績：412日 (R2年度)
②「人財力」の強化	地域畜産を牽引する人材の育成 高度な技術を有する指導者確保	◎畜産クラスターの取組による担い手の確保・育成 目標：258戸 実績：243戸 (R2年度)
③「販売力」の強化	ブランド力強化による取引拡大 畜産関連産業の機能強化	◎牛肉輸出量 目標：400t 実績：686t (R2年度)

## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

この10年、口蹄疫からの再生・復興、さらには畜産の新生に向け、各ステージに応じたプランを策定し、畜産農家及び関係者一体となって、計画的かつスピード感をもって取組を進めてきました。以下に「畜産新生推進プラン（平成28年度策定）」の取組を紹介します。

### ◎ 防疫体制の強化

「水際防疫」、「地域防疫」、「農場防疫」に加え、「万が一の発生に備えた迅速な防疫措置」の強化を継続して推進。



< 空港での消毒マット >



< 地域での防疫実演 >



< 農場巡回指導 >



< 県の防疫演習 >

### ◎ 生産力の向上

畜産クラスター事業等を活用した畜舎等の整備やスマート技術の導入等により、経営規模の拡大や効率的な生産体制を構築し、生産基盤の強化を推進。



< 地域肉用牛拠点施設 >



< 搾乳ロボット >



< 最新鋭養豚施設 >



< 最新鋭養鶏施設 >

## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

### (2) 各プランの取組

#### ◎ 人財力の強化

畜産経営体の技術・経営能力の向上を図るため、畜種毎の高度な専門技術と経営指導力を有する畜産マスター（県及び団体職員等）を育成。



<フィールド研修>



<座学研修>

#### ◎ 販売力の強化

「宮崎牛」をはじめ、県産ブランド畜産物等の国内外でのプロモーションを積極的に展開し、販路拡大を推進。



<宮崎牛>



<宮崎ブランドポーク>



<宮崎産牛乳>



<みやざき地頭鶏>



<最新鋭の食肉処理施設>

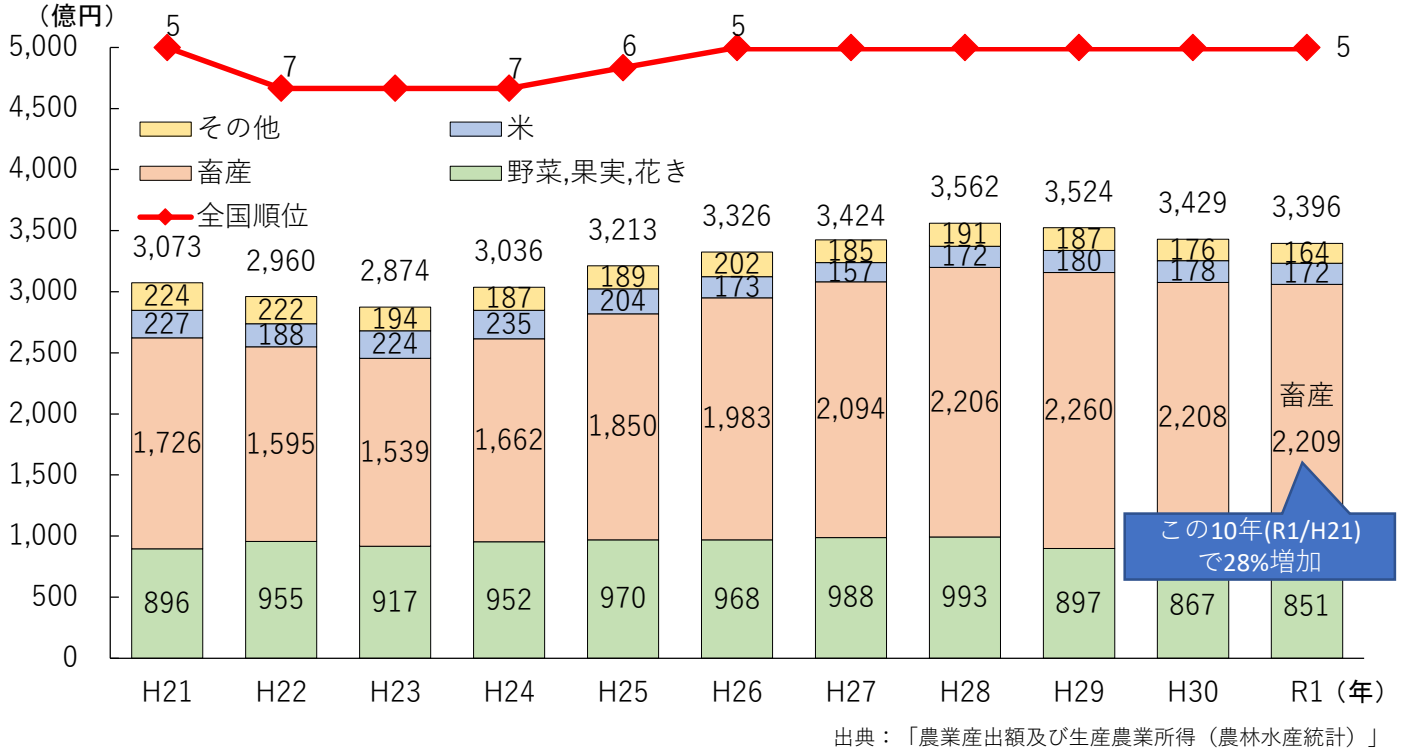


<アカデミー賞アフターパーティー採用>

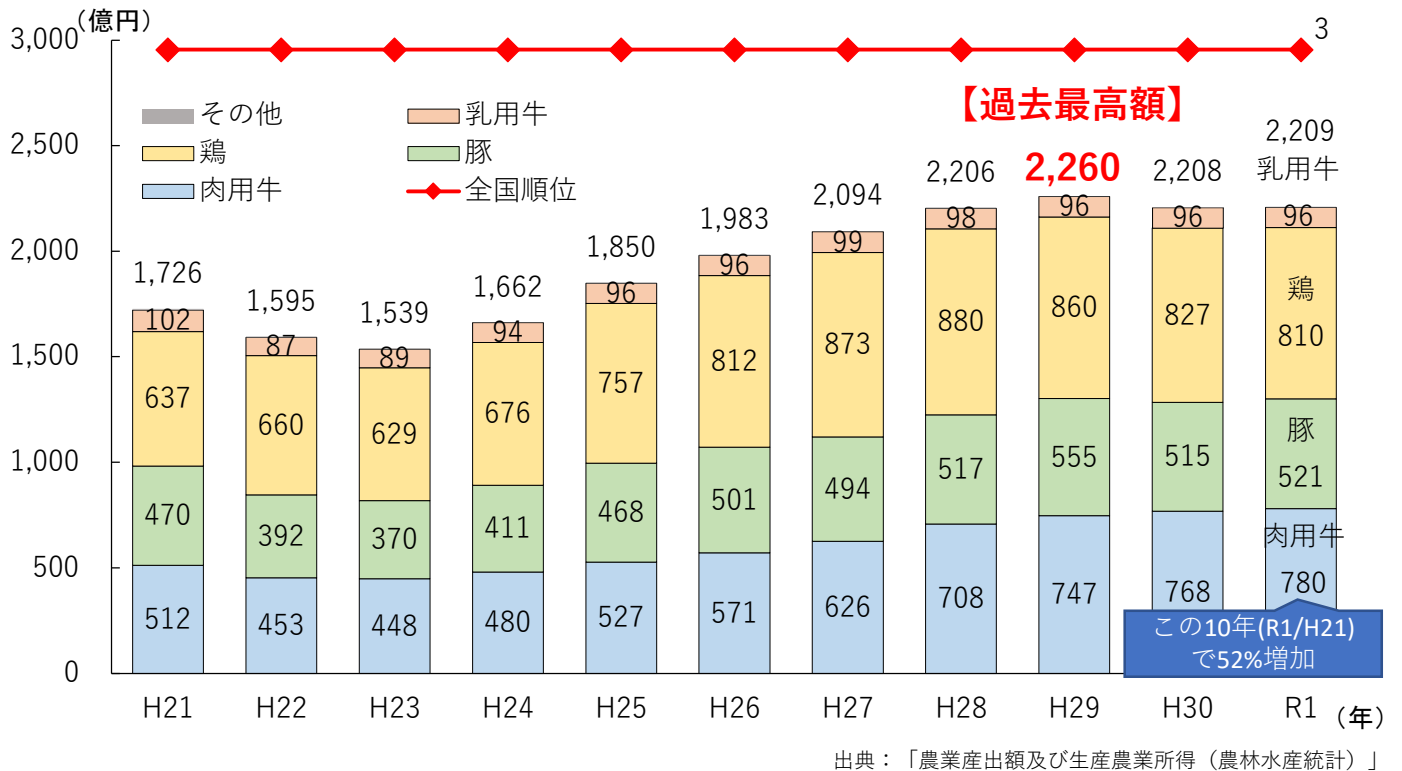
## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

### 2 主要データ

#### (1) 農業産出額（全体）の推移

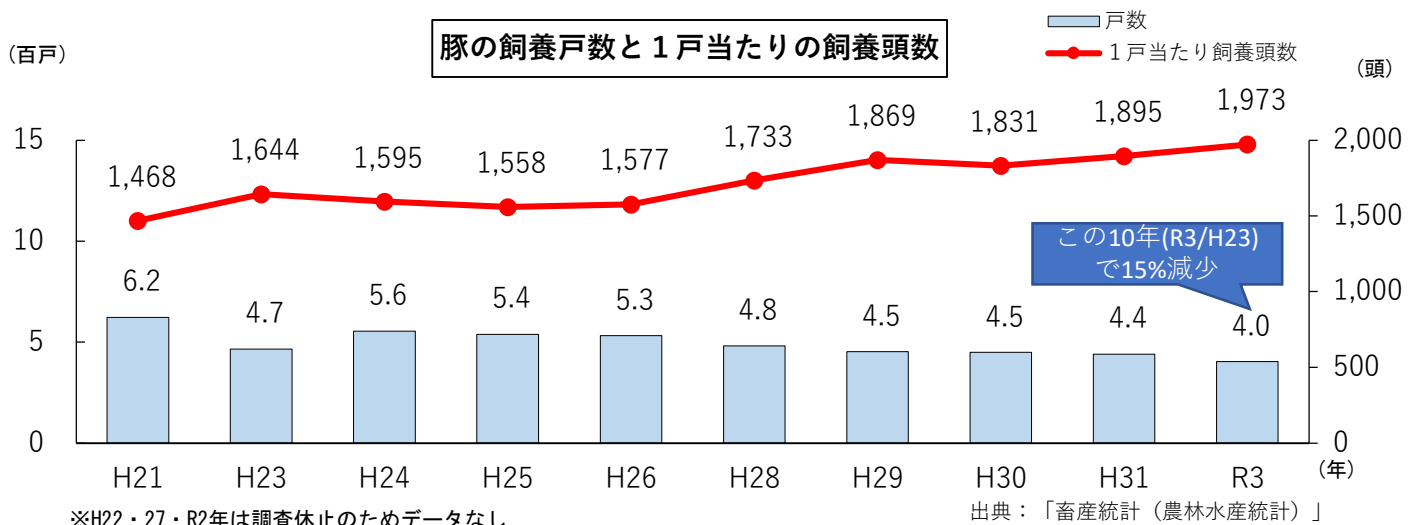
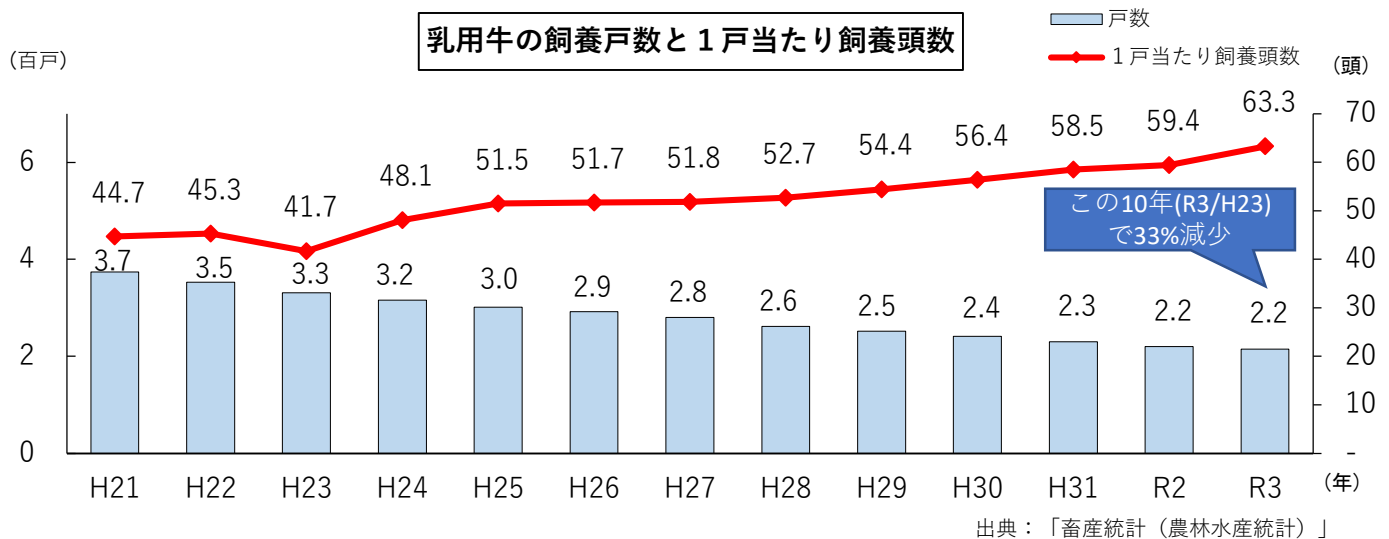
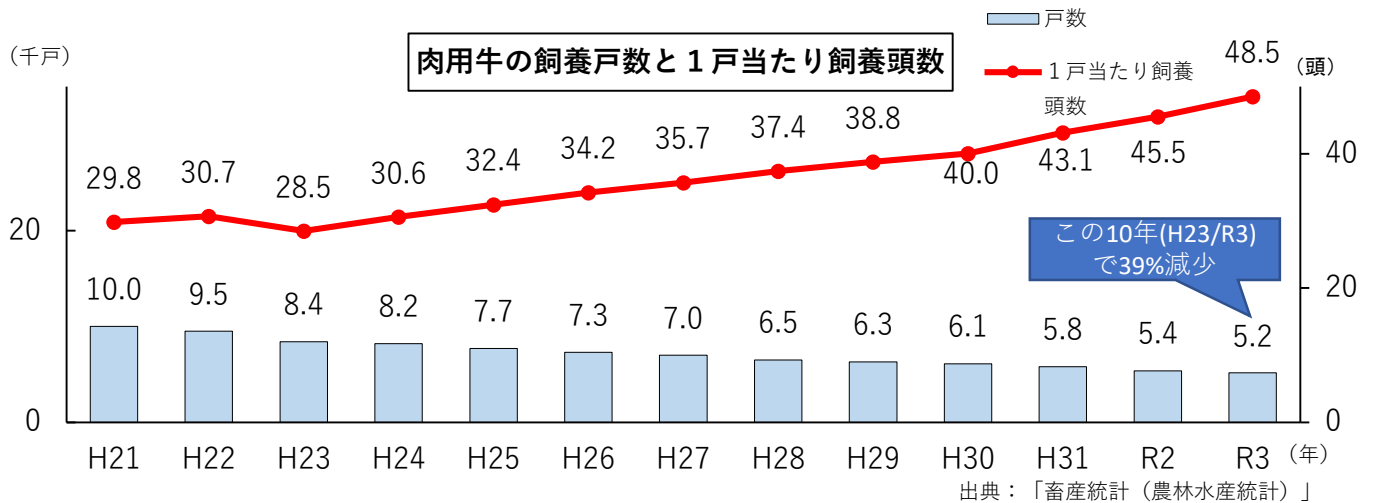


#### (2) 農業産出額（畜産部門）の推移

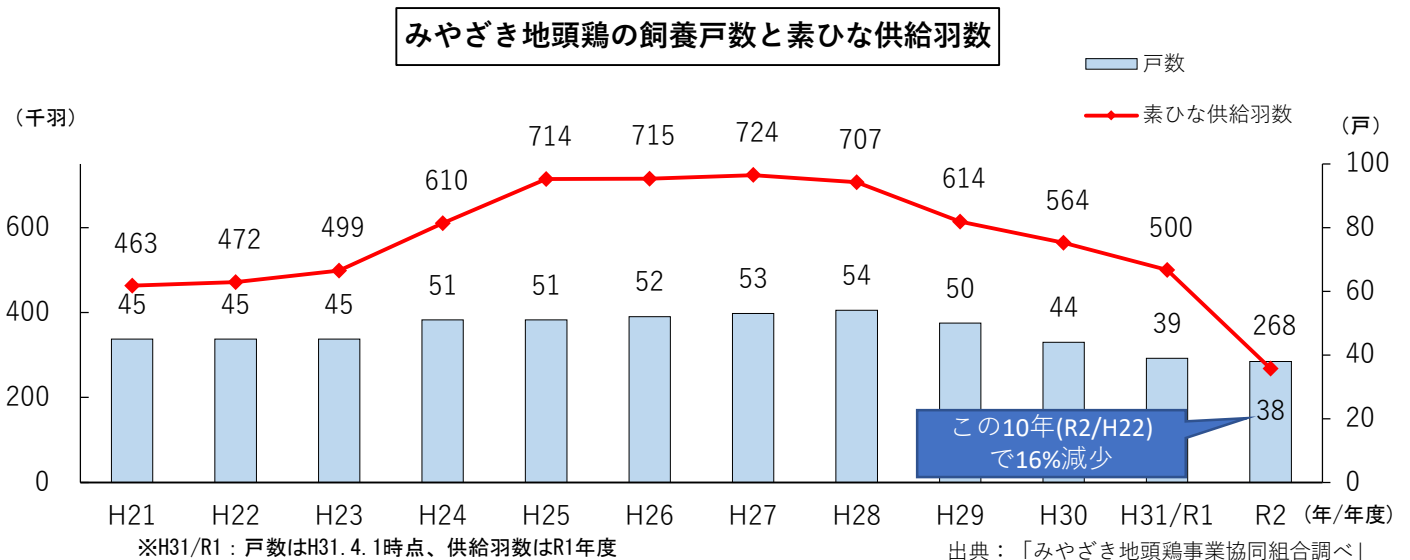
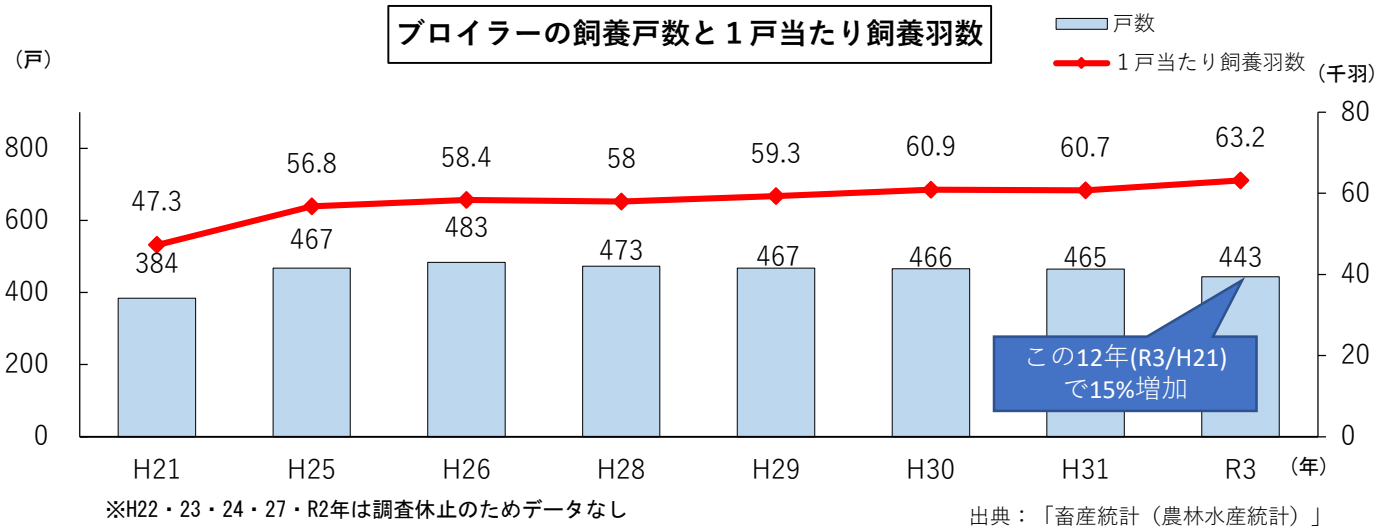
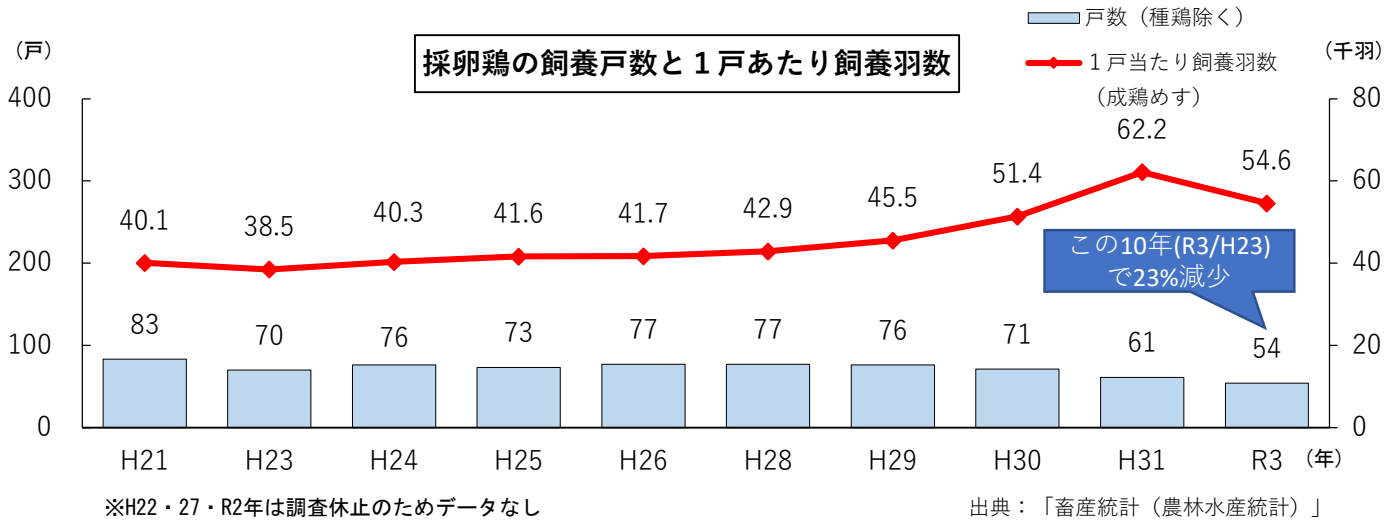


## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

### (3) 各畜種ごとの農家戸数の推移



## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

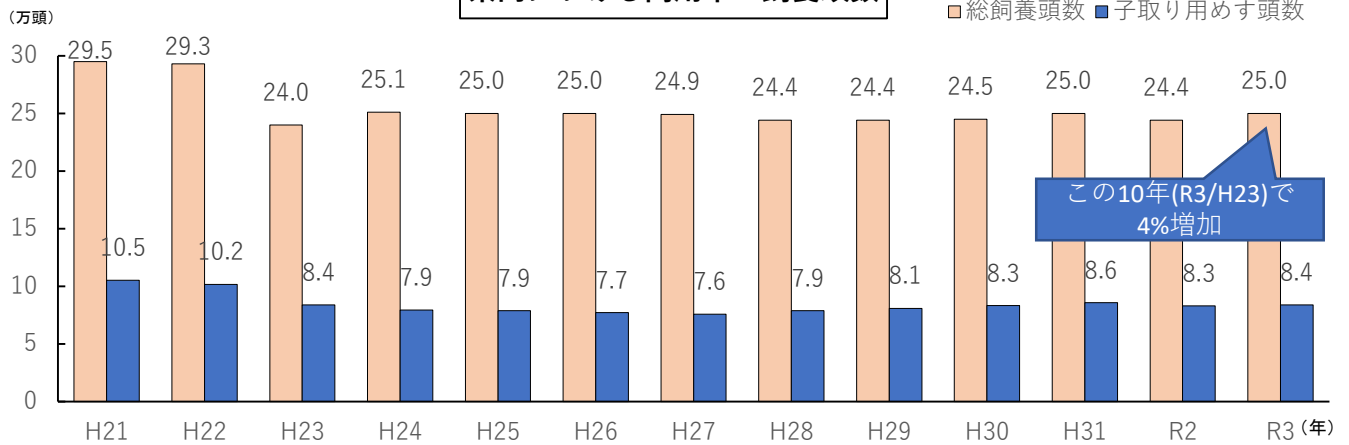




## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

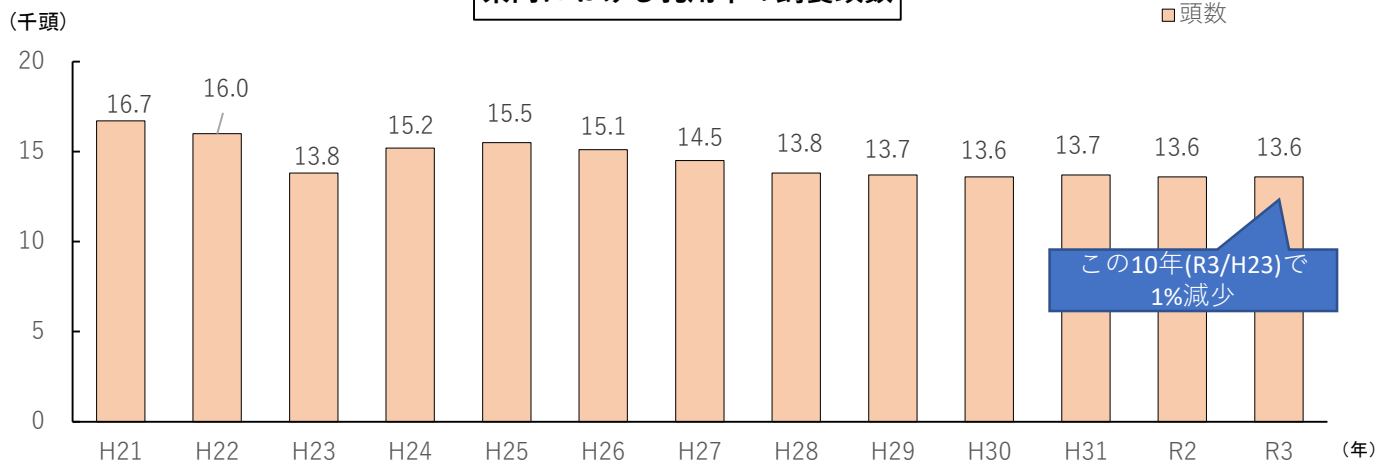
### (4) 各畜種ごとの飼養頭羽数の推移

県内における肉用牛の飼養頭数



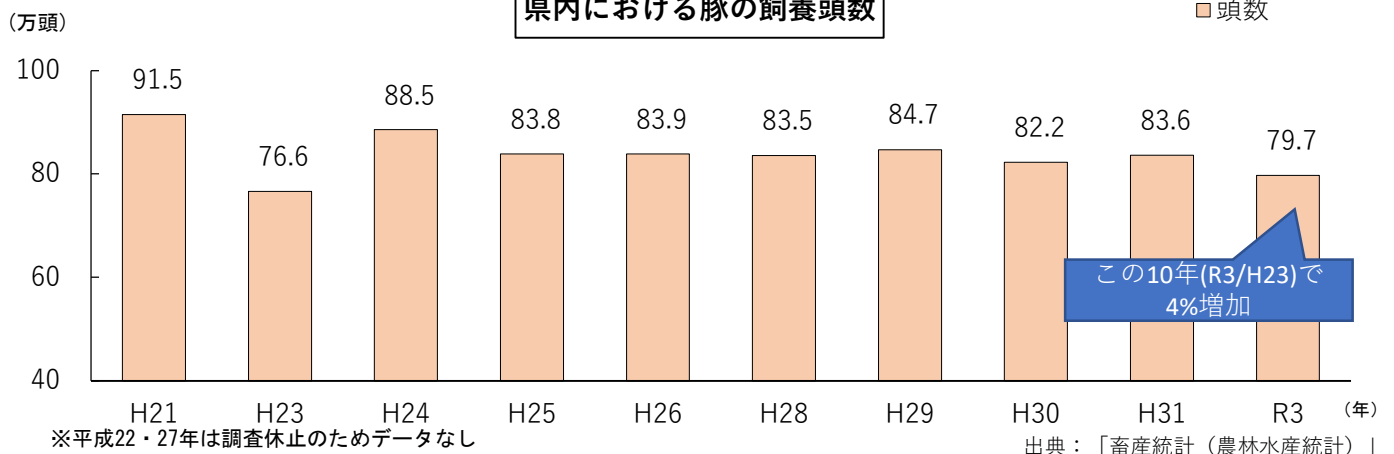
出典：「畜産統計（農林水産統計）」

県内における乳用牛の飼養頭数



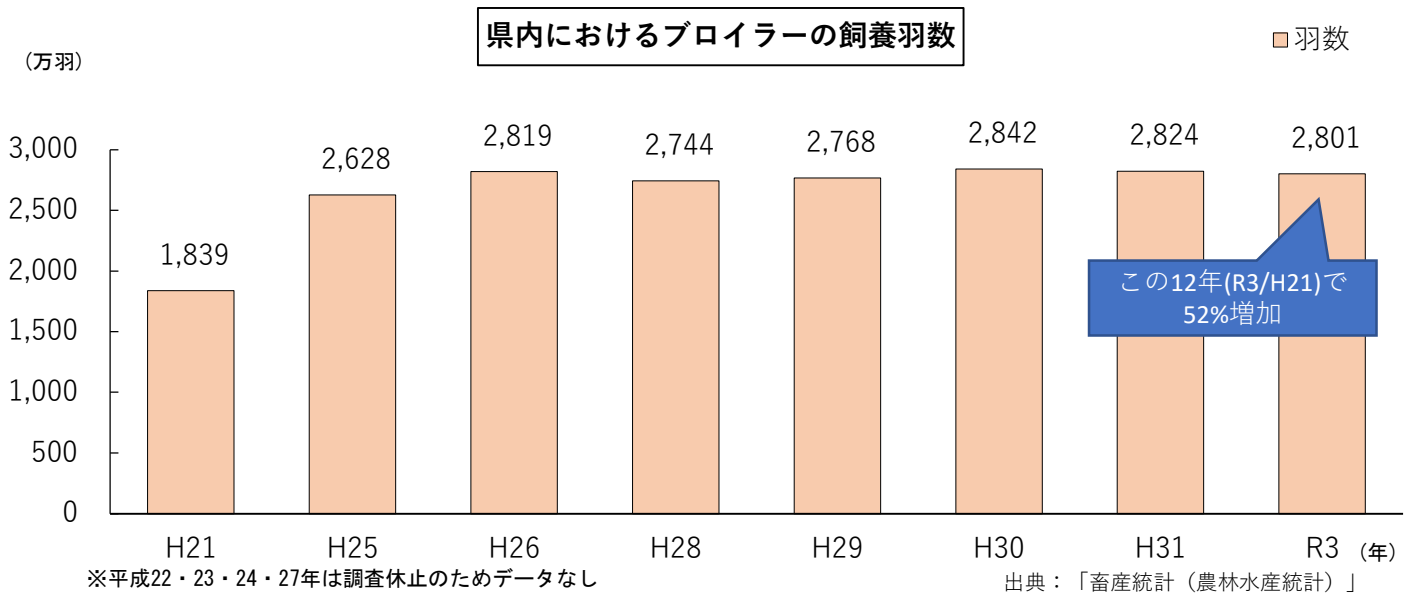
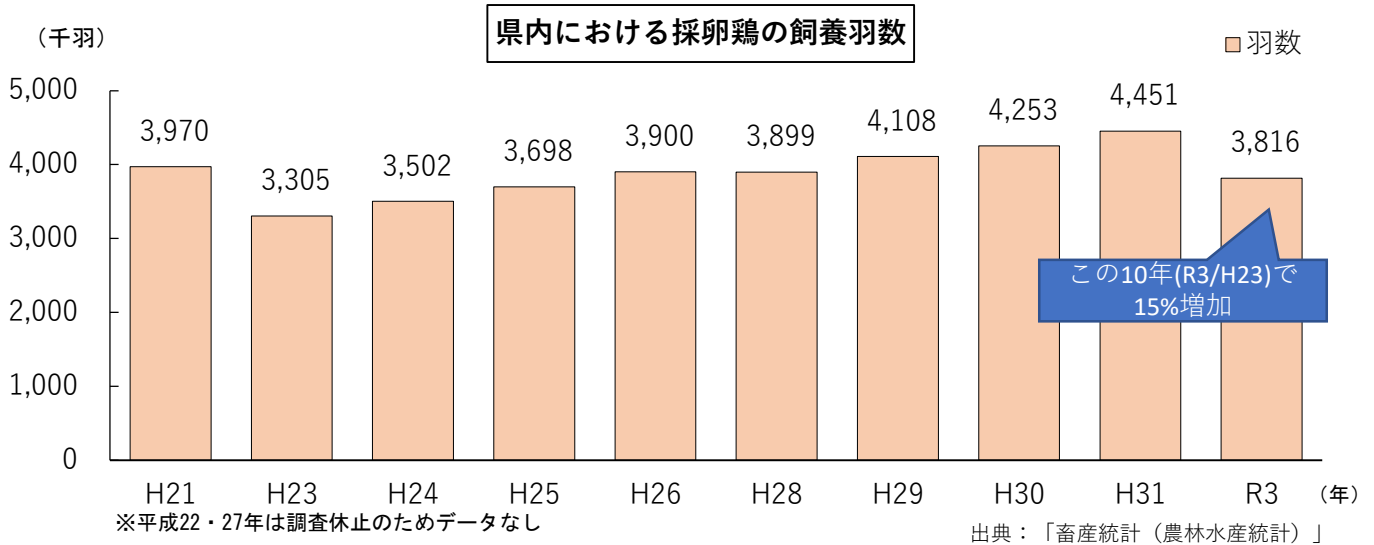
出典：「畜産統計（農林水産統計）」

県内における豚の飼養頭数



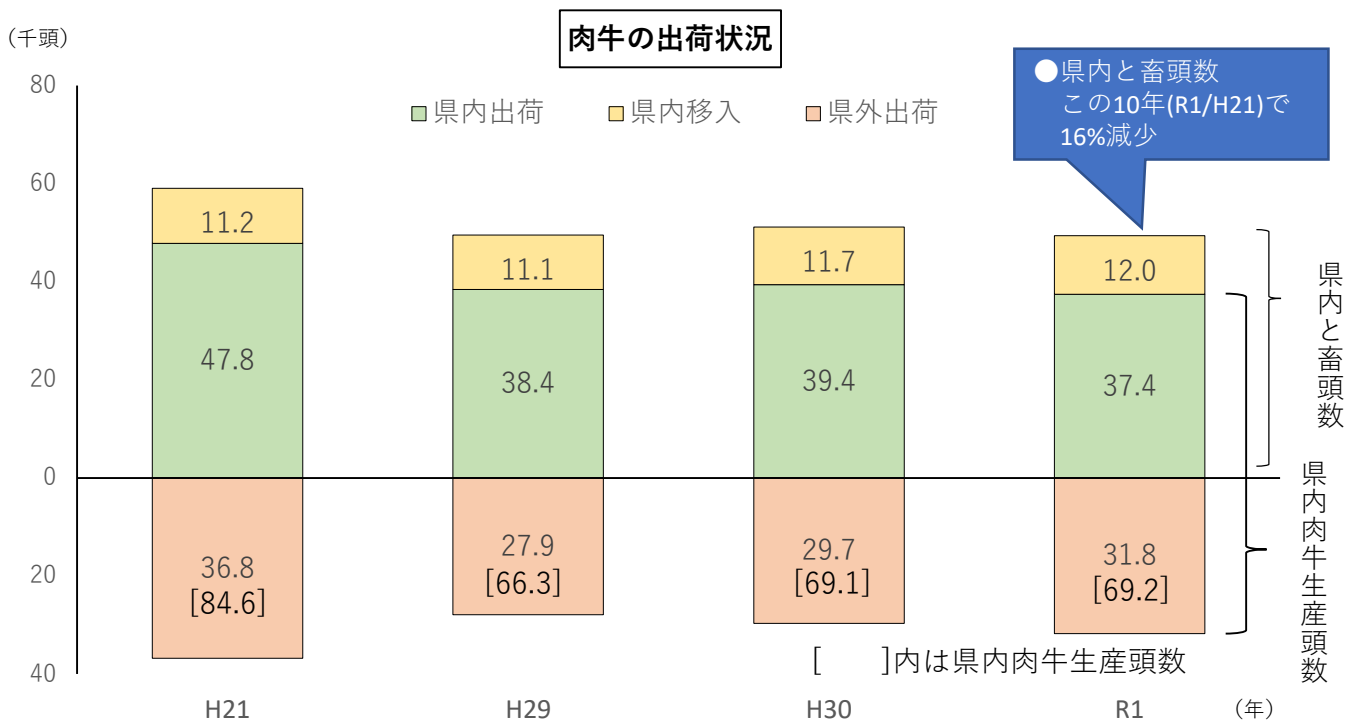
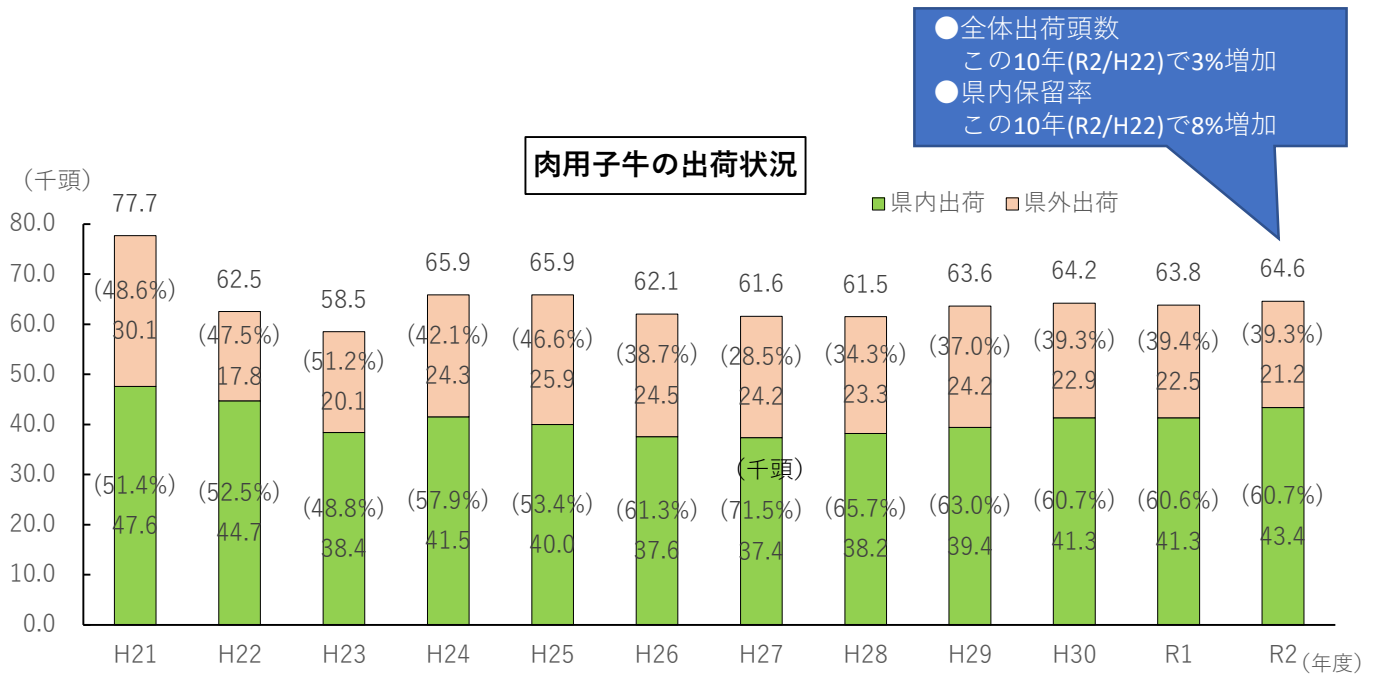
出典：「畜産統計（農林水産統計）」

## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

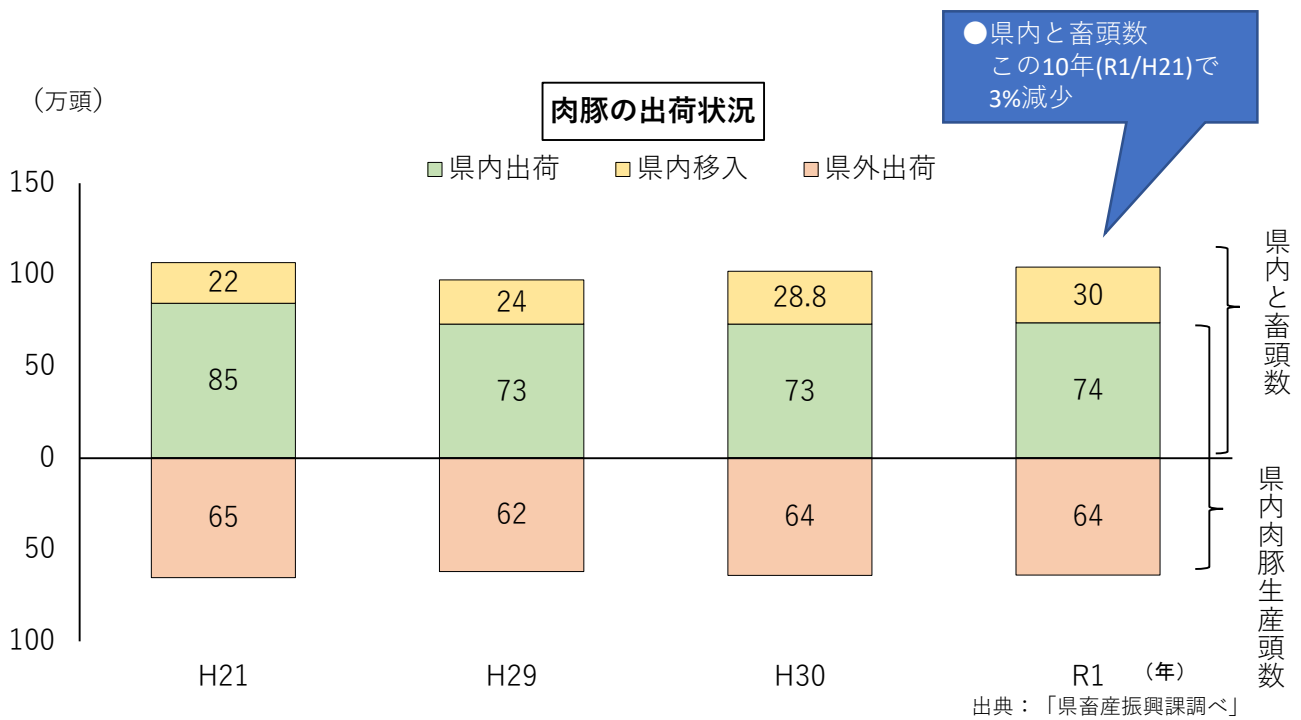
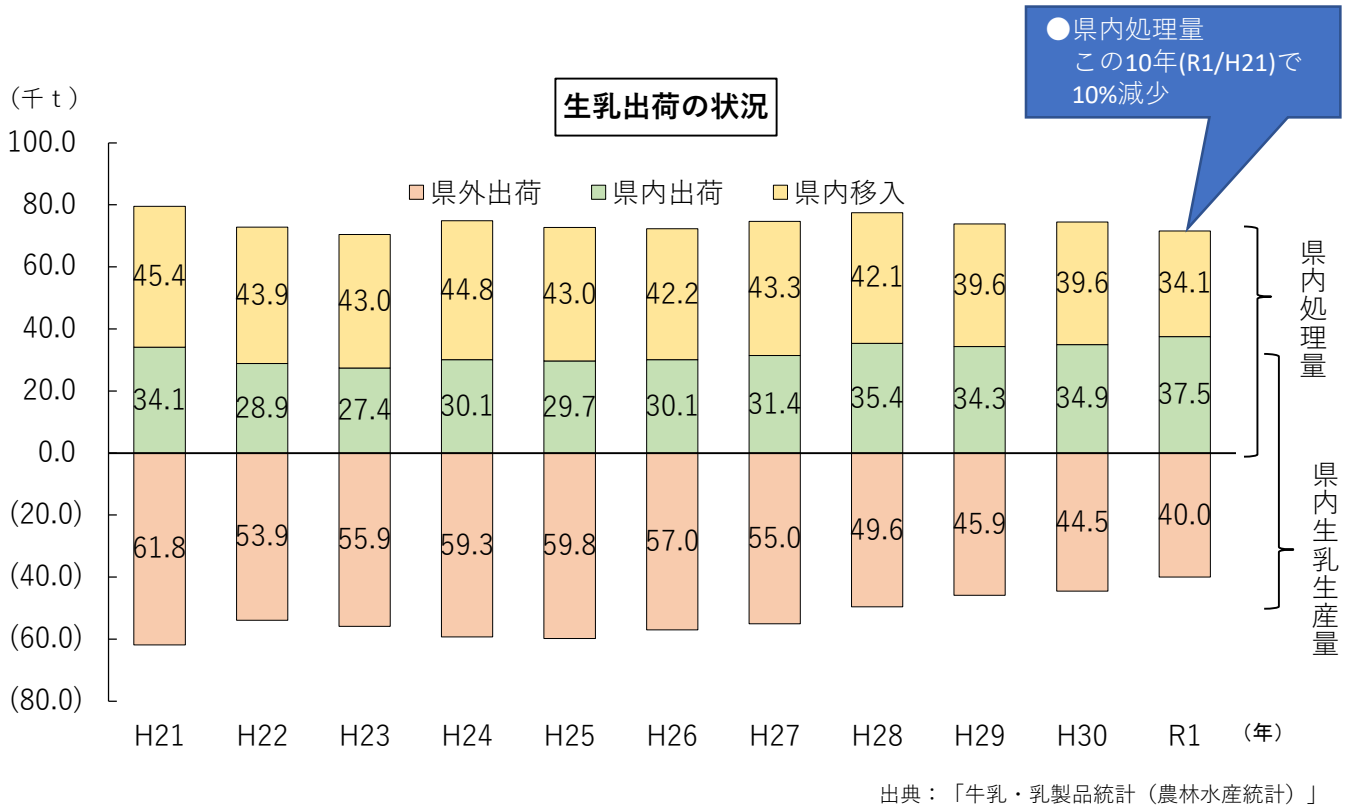


## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

### (5) 出荷状況の推移



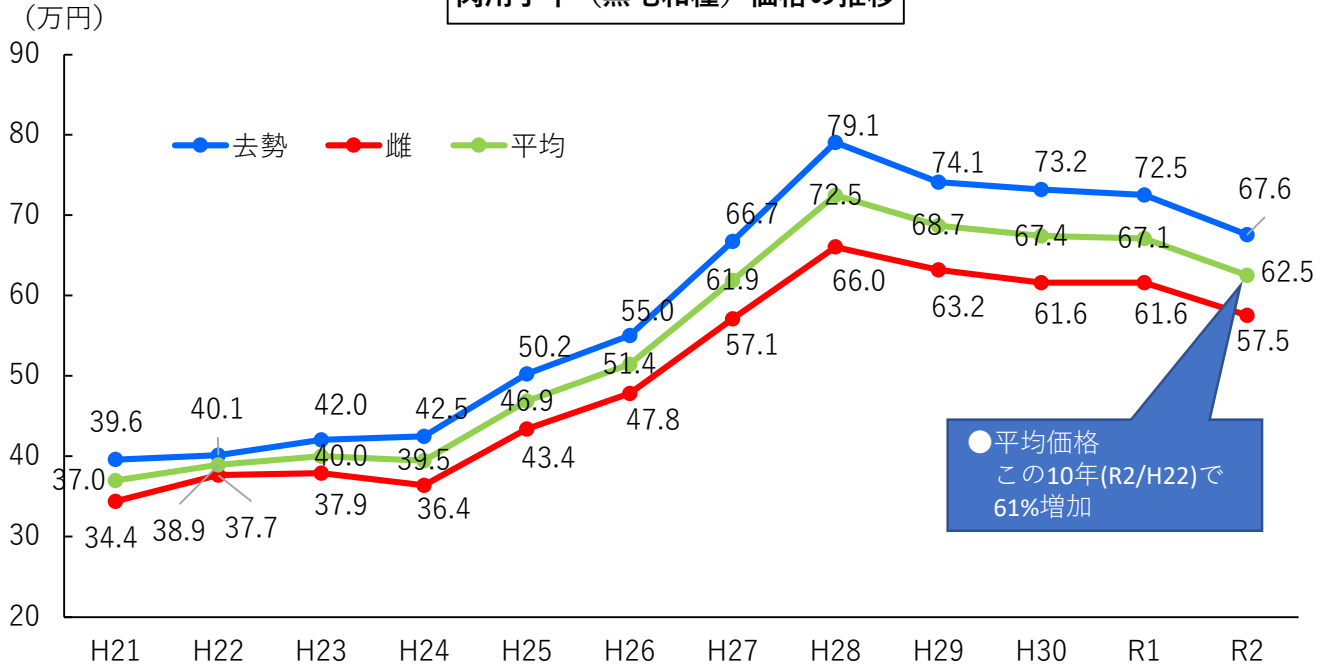
## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る



## 第5章 口蹄疫発生から10年を振り返る

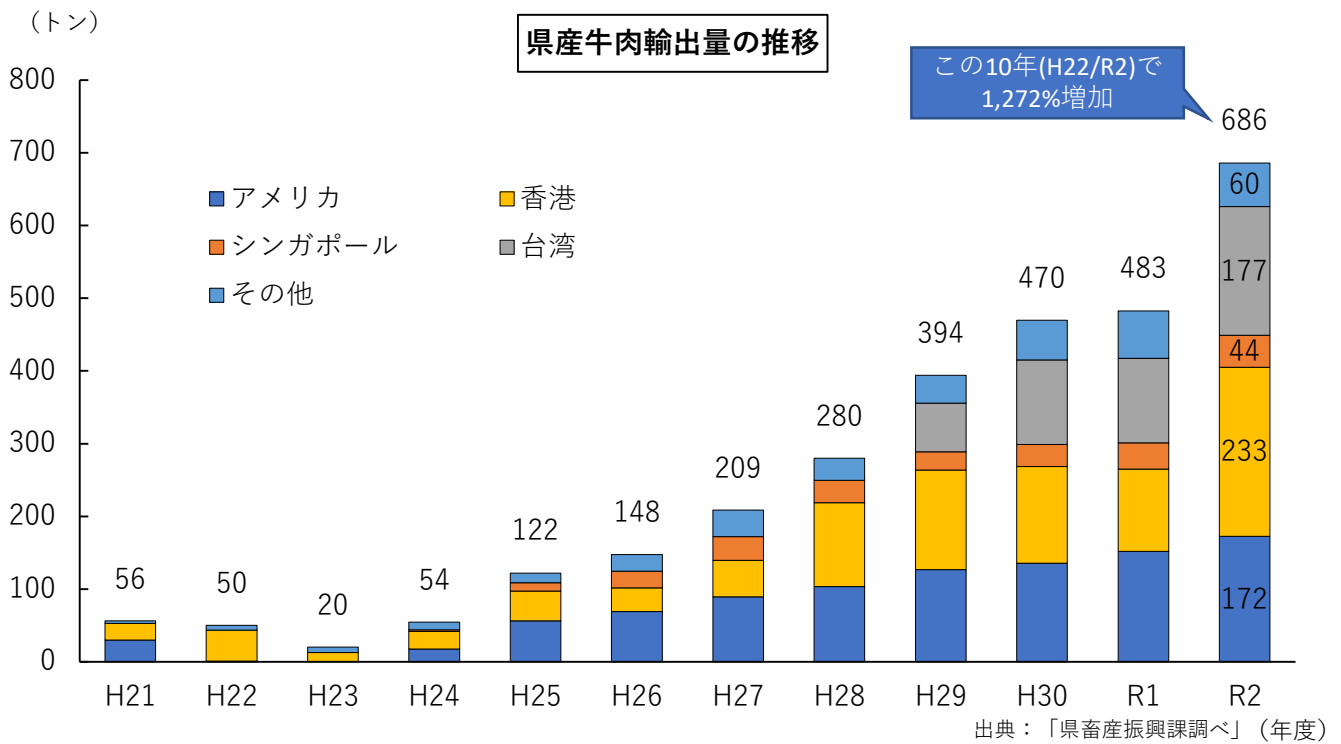
### (6) 肉用子牛価格及び牛肉輸出量

肉用子牛（黒毛和種）価格の推移



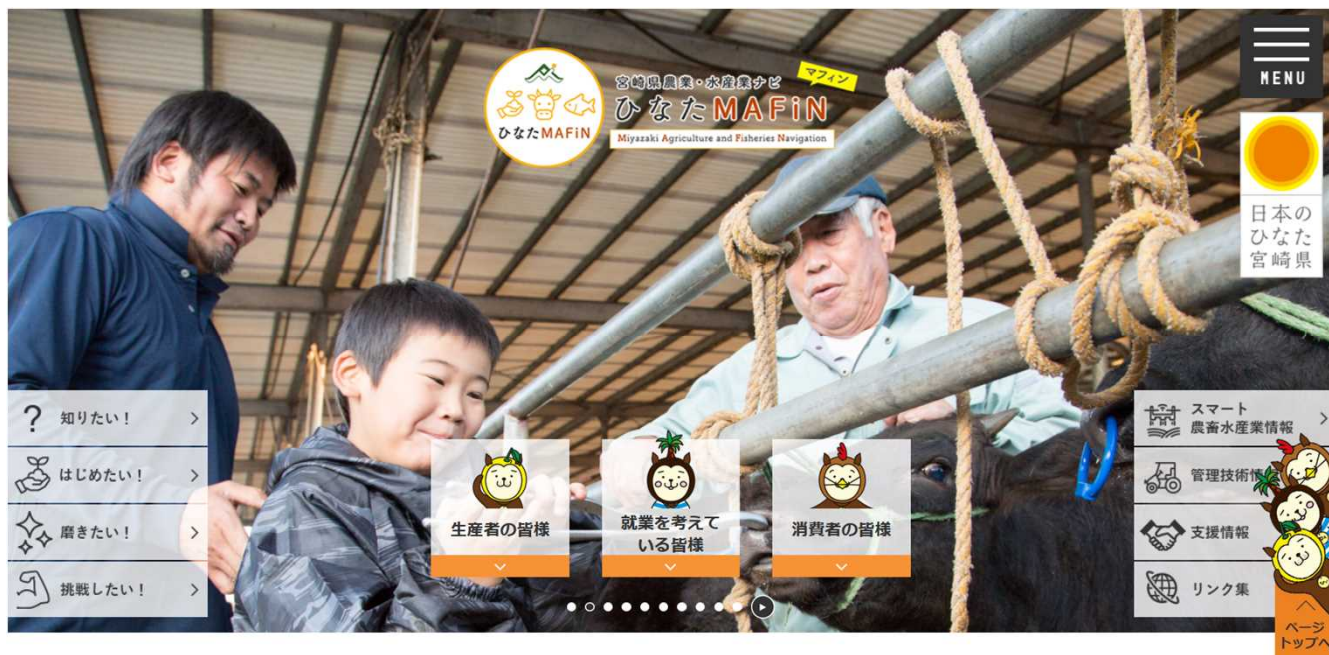
出典：「宮崎県畜産協会調べ」（年度）

県産牛肉輸出量の推移



出典：「県畜産振興課調べ」（年度）

# 農畜水産業の情報をもっと身近に ～ひなたMAFiN（マフィン）はじめました～



令和3年3月から、宮崎県農政水産部の情報発信が進化していることをご存じですか？  
これまで様々な形で県民の皆様へ情報を発信してまいりましたが、この度、より一層身近に感じて頂けるように農畜水産業の情報に特化したホームページを立ち上げました。その名も「ひなたMAFiN（マフィン）」

農業者、漁業者、県民の皆様への「知りたい！伝えたい！相談したい！」にお応えする、つながる情報ツールとして、これから幅広く運用して参りますので、是非登録の上、御利用ください。

## 様々なインターネットツール（SNS）との連携もはじめました

### ひなたMAFiN～YouTubeチャンネル～

いいね！ シェア ツイート 更新日：2021年06月21日

ひなたMAFiNチャンネルではYouTube（ユーチューブ）にて、動画による分かりやすい情報発信を行ってまいります。

このページは、ひなたMAFiNチャンネルにアップされている動画の目次としてご活用ください。

大きな画面でご覧になりたい場合には、動画の右下の部分「全画面表示」をクリックすることで、全画面表示で視聴することが可能です。

↑画像をクリックするとYouTubeへ移動します

#### 新着動画！！

<p>農業・水産業従事者にインタビュー！NEW!!</p>	<p>ヘンリー気象予報士の農業気象講座（第1回）NEW!</p>	<p>宮崎県立高等水産研究所～高水研ってどんなところ？～NEW!!</p>
-------------------------------	----------------------------------	---------------------------------------

登録はこちらから（無料）

ひなたマフィン 検索

メールマガジン

ひなたMAFiN SNS

ホームページの立ち上げに併せて、YouTubeチャンネルの開設、Facebook、twitter、Instagramなど各種SNSとの連携もスタートしています。お使いの携帯電話から、上記の二次元バーコードを読み込んで、是非御登録ください。